

# 中国研究の学術的手引書

## 書評

近年、わが国に 研究の基礎に着手し、「inter-disciplinaryな中国研究への志向」「タコツボ」意識の打破」をモットーにして編まれたものである。

全体の構成と執筆者は「研究のための工頁類」(市古宙三)「文学と文章」(前野龍彬)「社会経済史」論文の出来るまで・二つの実験」(田中正俊)「政治外交史」清末の根本資料を中心として」(坂野正高)「政治外交史」辛亥

### 「近代中国研究入門」

坂野正高・田中正俊  
衛藤藩吉 共編

東大出版会・一六〇〇円

革命以後」(衛藤藩吉)「清朝の法制」(遊黄秀三)「現代の中国法」(渡井敦)「現代の中国経済」(石川雄)となっており、それぞれ分野の中核的な専門研究者が、内外の研究水準を広くフォローし、それらを冷静かつ慎重に評価しつつ筆を進めている。

### 「中国研究文献案内」

I・K・フェアバンク  
市古宙三 共著

東大出版会・二〇〇〇円

各執筆者自身が研究者としてどのように問題に対処してきたかを知るだけでも意味があるが、たとえば、「その史料の原典にまで通った綿密な内検討を経ている

採眼を持つことができさらに要求されるのである」(衛藤藩吉)といった表現には、学問の道の厳しさが見み出ている、襟を正さずにはいられないであろう。全執筆による巻末の座談会「中国研究の回顧と展望」も、きわめて内容豊かな討論である。

市古・フェアバンク共著の「中国研究文献案内」は、ハーバード大学の碩学フェアバンク教授の名著「合衆国と中国」(邦訳「中国」東大出版会)を邦訳された市古氏が、同書の「文献案内」にある欧文文献に加えて、日本文・中国文献を加筆し、ここに二書と成ったものである。本書は、たんなる文献リストではなく、各文献ごとに有益なコメントが付されたうえに、甚大な量の内外の研究文献が「一般参考図書」「中国の伝統文明」「中国の社会と文化」「近代中国」「人民共産国」「中国とアメリカの関係」「附録」『東洋史学』の開始者たち』の各項目に整然と分類されており、研究者や中国に興味をもつ一般の読者にとって、きわめて有益な文献案内である。

以上のように、今日の時点でこの二書の出版は、学問的にも時期的にも意義深く、これから中国研究を志す者や若き学究たちは、このような書物を探すべきに幸せたいといえよう。それだけに、そのような便宜に甘えることのないよう、すぐれた研究業績が積み出されねばなるまい。

中国に関する論文というと、とかく政治的効果を目指した政治論文、宣伝論文めいたものが多い昨今だけに、現代中国にかんする科学的な研究とはどういうものであるかを、この二書は教えてくれる。

(中国雑誌 東大出版会)

そのようなとき、東大出版会から相次いで刊行されたこの二書は、わが国アカデミアの分野における最高水準の中国研究の成果を反映した研究案内であることも、これから中国研究を志す若き学生にとって、かけがえのない手引書となるものである。アメリカの学界とは異なって、これまでこの種の学術的な手引書がわが国にはなかっただけに、この二書が刊行されたことの意義は大きい。

坂野、田中、衛藤編の『近代中国研究入門』は、近現代中国研究にかんし、「学問研究として必要な基礎的素養、および、資料や工